

『国会の責任』

を

果たします

国民からは、鳩山総理と小沢幹事長の「政治とカネ」の問題について「説明責任が果たされていない」と、依然厳しい声があります。しかし民主党は、私たちの「小沢幹事長の証人喚問要求」は無視し、「石川衆議院議員の辞職勧告決議案」も放置したまま。国会の日程も自分たちの都合で勝手に決めて進めています。与党が少数派の野党に目配りしながら進めるのが民主的な国会のはずですが、数の力を背景にした独裁的な国会運営には民主主義崩壊の危機を感じます。

私たちは、責任ある野党として国会審議に復帰します。充実した予算審議を行うとともに、引き続き、国会の“常識ある運営”を求めて行く決意です。

鳩山内閣の予算案に 反対です。

- ✓ 鳩山政権の二次補正予算は、自民党が編成した一次補正を執行停止・凍結したものを、その後ただ解凍したものでした。結果的には景気回復を遅らせただけで、このような鳩山政権の経済運営の稚拙さによって、「鳩山不況」の顕在化が懸念されています。
- ✓ 政府案は、“バラマキ政策”を実施する財源の確保のため、わが党の来年度予算の対案に比べ、国債発行額が3兆円も多くなっています。
- ✓ このまま“バラマキ政策”を続ければ、公債発行額が4年後にはわが党案よりも44兆円も上回って大きく膨らむおそれがあります。
- ✓ 民主党のマニフェストでは、「無駄の撲滅と予算の組替えで財源を捻出する」としていましたが、これがまったくのウソであったことが判明しました。
“埋蔵金”頼みでは無理、「恒久政策には恒久財源が必要」なのです。